



恒例となっている姉小路の地藏盆イベント（本文中に関連記事があります）

## 目次 contents

---

◇姉小路界限での新たな展開.....	2
◇プラスチック製容器包装の分別収集モデル分別実験を 行いました .....	4
◇福祉の現場実習体験記 .....	7
◇環境ビジネスの未来がすぐそこに .....	10
◇知事もノーネクタイ .....	11
◇ふらっとバスにて .....	12
◇メディア・ウォッチ .....	13
◇まちかど .....	14

# 姉小路界隈での新たな展開

〔京都事務所／石本 幸良〕

これまでニュースレターの90号、100号で紹介しました、京都の都心部「姉小路界隈を考える会」でのまちづくりの取組が新たな展開を迎えていますので報告します。

## 地域共生の土地利用検討会の新たな展開

マンション計画地において事業者、住民、行政のパートナーシップによる土地利用を考える検討会が平成11年1月に発足しましたが、1年間の取組の成果として、12月に基本構想を作成しました（100号で紹介）。

12年に入り、「かたち、機能の担い手、入居者」の検討がスタートしました。

### 「どんな形」

建物のデザインについては界隈の町並みに調和し、まちの変化や建物内の活動、利用の多様性・変化に対応できることが求められており、「スケルトン建築」が提案されました。

具体的な建物のかたちについては、計画地周辺の都心界隈の模型が作成され、その中に建物の計画案をはめこんで、模型を囲んで討議を重ねました。通りからみた町並み、北側への圧迫感、日影の影響など、4回の検討会で一つひとつ問題点を確認し、解決方法を参加者で相互に了解していく形で進めました。その結果、8月の13回目の検討会で大枠の建物のかたちが決定しました。この間の検討内容は模型写真と検討内容をニュースにまとめ、地域に配布しました。このような取組の成果として住民の方からは妥協も必要であったが、一つひとつ丁寧に取り組んできたことに対する満足感が共有されました。

姉小路界隈を考える会では、この取組経過を恒例となっている地蔵盆のイベント期間中、パネル展を開催し、地域の方だけでなく、都

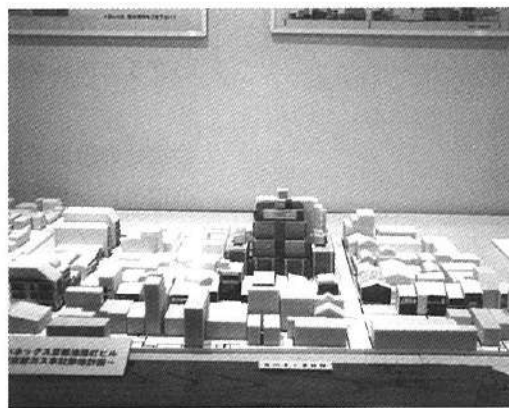
心を訪れた方々にもこれまでのその成果について模型を使って紹介し、取組への理解と関心を喚起する結果が得られました。

### 「機能検討会」

基本構想で打ち出された、地域と共生する機能の担い手については、界隈のまちづくりの取組に沿ったものが望まれ、機能の内容とその担い手を検討する「機能検討会」を設置しました。都心界隈の資源の活用・発信から、伝統産業や老舗との連携、大学との連携などの検討・協議が行われ、地元在住の工芸作家を軸に、工房とギャラリー、及び事業を支援する企業の話が進んでいましたが、現時点では白紙に戻った状態で、再度、「交流」の視点で再構成が求められています。

### 「まちなか住まい交流会」

今回の集合住宅の居住者像や生活スタイルを考えるため、事前に入居者（候補者を含む）を募集し、シナリオづくりのワークショップを通じて交流と計画を具体化する交流会がスタートしました。都心の歴史・文化を享受すると同時に、まちづくりの担い手になることに関心のある方を募集し、地域住民と一緒に対象地の「新しい都心居住を支える集合住宅（賃貸）のあり方」を考えていきます。



計画での模型を囲んでの検討



都心住まいを語り合った「まちなか住まい交流会」

第1回は9月3日に応募者と地域住民約40名の参加で交流会を開催しました。検討会で地域住民から出されていたマンションに対しての「顔が見える安心感と顔の見えない不安感」の思いと、「都心は閉鎖的で新住民を受け入れないのでは」と感じる都心居住希望者の思いの相違を、意見交換をする中で相互に理解し、その上でまちを一緒に考えていくことを願いました。参加者から「郊外に住むことの不便、不安よりは都心の便利、安心を求めている」、「単身者は地域で認めてもらえない」、「マンションだけの町内会になるのか」などの率直な意見が出されました。今後は応募者を中心に都心での生活イメージを空間に置き換え、設計につなげていく予定です。

#### 「検討会のこれから」

検討会の取組も1年半を越え、全体の検討会、機能検討会、まちなか住まい交流会の開催、そのための事前協議と、ますます回数が増えています。住民のみなさんも少し疲れ気味が本音ですが、今回の前例のない取組を何とか成功させたいと再度確認しています。

#### 旧京都中央電話局再生に向けての取組

姉小路通と烏丸通の交差部にある京都市有



旧京都中央電話局再生に向けた地元住民と協働のワークショップ

形登録文化財の旧京都中央電話局が外壁保存で商業施設として再生する計画が進められています。姉小路通側は4m程セットバックしており、通りに面しての雰囲気づくりについて、NTTから地元と協議を進めたいとの要請があり、会では地元住民によびかけてワークショップを開催して検討しています。7月初旬に「どんな雰囲気にしたいか」を参加者で検討し、現在そのまとめをベースに具体的な検討が行われています。2回目はその計画をもとに、再度協議を行い、将来の通りの管理についても検討を予定しています。

#### 姉小路界限式目の策定

会では昨年から江戸時代の町衆の自治規制である「町式目」を学習してきました。江戸時代には家の売買のこと、家の建て方や相互扶助について各町で様々な規定があり、生活上の様々なトラブルに対処してきました。様々な問題が起きている現在、先人の知恵をお借りして現代版町式目を考え、4月の総会で会の基本指針として「姉小路界限式目」を策定しました。今後は具体化に向け「看板の似合うまちづくり」「界限の道空間を考える」「まちづくりの具体的なルールづくり」などを

検討していく予定で、最初の取組として界限の歴史を語る「看板」についてアンケート調査を実施しています。

#### 会の活動のこれから

会設立以来の5年間多くの活動を展開してきました。住民、事業者、行政の協働による都心居住の集合住宅もようやくかたちが見えつつあります。しかし、その間にもまちは急激に変化しています。理想論やマスタープランがあっても法律は建築自由を前提としており、住民だけの活動や自己を律するだけの住民の総意ではまちの変化を止めることはできません。でも、姉小路界限で商売をしたい、住んでみたいと都心に人が戻りつつあります。住民の活動のできることはそのようなまちのファンを増やすために、まちから発信し続け



界限の歴史を語る「看板」

ることでしょう。

会ではこの4年間、地元の約150世帯の自主的な参加により、京都の都心の魅力を再発見する活動を継続してきました。楽しみながら、企画をして実践する中で新たな人の交流が生まれました。活動を継続する中で都心部で失われつつある住む誇りを見つけることを目指しています。

## プラスチック製容器包装の 分別収集モデル分別実験を行いました

〔大阪事務所／松岡 浩史〕

### 吐息は白く・・・

午前7時から京都市内の街角に立ち、「前回ごみを出されたのはいつですか?」、「ご家族は何人ですか?」などを聞きながら、排出されたごみをサンプリングしてきました。昨年の10月から今年の3月までの毎朝の日課でした。

平成12年度から「容器包装に係る分別収集および再商品化の促進等に関する法律（容器包装リサイクル法）」が完全施行され、プラスチック製容器包装を分別し、再資源化することが事業者には義務づけられました。これに伴い、京都市でも、食料品の袋やパックなどの

プラスチック製容器包装の再資源化をめざし、昨年10月からモデル分別実験を開始しました。

### 京都市のルール

容器包装リサイクル法とは、商品が消費されたり、商品と分離された場合に不要となるびん、缶、プラスチック製・紙製の商品の容器、及び包装材を消費者・事業者・自治体が役割を分担してリサイクルを促進し、一般廃棄物の排出量や最終処分量を減らして循環型社会の実現をめざす法律です。

しかし、法律の対象が、容器包装に限られているため、次に挙げるような負担の増大な





様々なプラスチック製容器包装

どが考えられ、多くの自治体が分別収集の実施に踏み切れないのが現状です。

- ①プラスチック製容器包装は、様々な素材や形状として利用されていることから、市民には分別対象品目が分かりにくく、異物混入が多くなり、分別収集したプラスチック製容器包装から異物を除去する選別費用がかかる。
- ②プラスチック製容器包装は、食料品の容器や包装として多く使用されていることから、洗浄など市民への分別排出ルール of 徹底が困難であり、汚れたものが多く排出されるため、洗浄費用がかかる。
- ③プラスチック製容器包装は、非常にかさばるため、収集効率が悪くなり、収集車両の増加や作業員の増員が必要となる。

そこで京都市では、これらの問題のうち、②の負担を軽減するため、汚れが付着する可能性の高いマヨネーズやわさびの容器、ラップなどを分別対象品目からはずしました。さらに、これら以外の容器包装でも汚れの除去が困難なものは、家庭ごみとして排出するように洗浄ルールを徹底しました。

#### モデル分別実験の概要

京都市のモデル分別実験は、前述したルールにより昨年の10月から今年の3月までの約



調査のもよう

半年間実施し、モデル地区として選定した市内3地区（合計約千世帯）において、プラスチック製容器包装を週1回の収集日に分別収集するというものでした。

また、モデル地区ごとに情報の伝達方法や説明会などの啓発手法を変え、実験期間中には3回のごみ質調査とアンケート調査を実施し、市民の排出状況、市民啓発の効果などを分析しました。

#### 様々なプラスチック製容器包装

モデル地区から分別排出されたプラスチック製容器包装を分類してみると、弁当のパック、カップメンのカップ、洗剤のボトル、菓子の袋、野菜を包装しているフィルムなど、多種多様な容器や包装が集められ、プラスチック製容器包装がいたるところで利用されていることを改めて認識させられました。

#### モデル分別実験の結果

##### <推定参加状況>

モデル分別実験期間中にプラスチック製容器包装を排出した推定参加世帯は約46%で半数程度の参加状況でした。

##### <分別排出量>

プラスチック製容器包装の発生量は1人

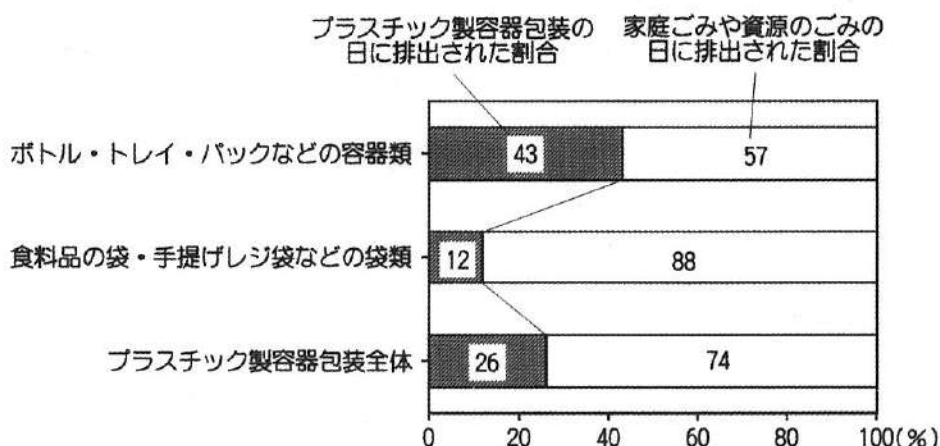


図1 分別排出状況（重量比）

1日当たり約34gで、このうちプラスチック製容器包装の収集日に正しく分別排出されたのは約9gでした。さらに、プラスチック製容器包装をボトルやパックなどの容器類、食料品の袋やフィルムなどの包装類に分けてみると、容器類に比べ、包装類の分別排出状況が悪いという結果がでました。

#### ＜プラスチック製容器包装の内訳＞

プラスチック製容器包装の収集日に排出されたものの内訳は、約74%がプラスチック製容器包装でした。しかし、資源ごみ（びん、缶、ペットボトル）に排出しなければならないものや分別対象外のプラスチックなど約26%が異物でした。

#### ＜家庭ごみ排出状況の変化＞

プラスチック製容器包装の分別収集を実施することによって、分別収集実施前に1世帯1カ月当たり約11袋排出されていた家庭ごみ（台所ごみ）は、約8袋に減量しました。

#### 全国の自治体の参考として

今回のモデル分別実験では、分別収集するプラスチック製容器包装の対象品目を限定し、

リサイクルしにくいものは焼却と割り切ったルールを採用しました。そのため、非常にきれいに洗浄された容器包装を収集することができました。

しかし、洗浄ルールを徹底したため、プラスチック製容器包装分別収集への市民の参加率や排出量は低くなりました。

但し、京都市のごみ分別区分が、これまで、家庭ごみ（台所ごみ）、資源ごみ及び大型ごみであり、プラスチック類の分別に慣れていないこと（関東地方を中心にプラスチック類を不燃ごみとして集めている自治体も多い）を

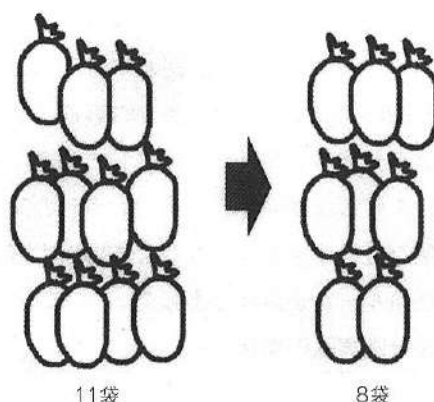


図2 プラスチック製容器包装の分別収集による家庭ごみ排出状況の変化

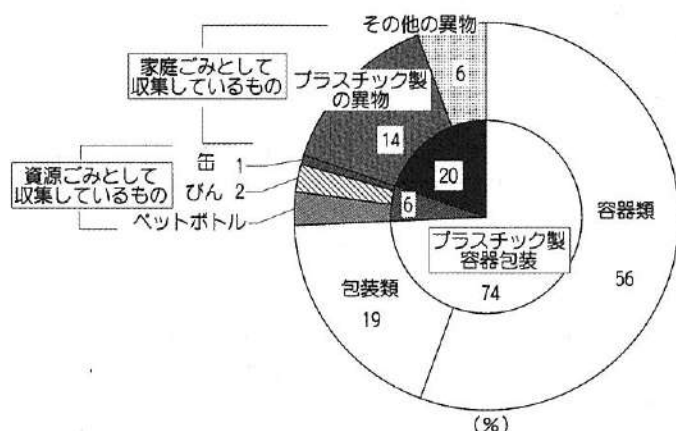


図3 プラスチック製容器包装の内訳（重量比）

勘案すると、今後、市民への継続的な啓発を実施し、時間とともに、徐々に分別排出を習慣化させていけば、参加率や排出量の向上は十分に可能であると考えられます。

アルパックでは、昭和55年度から家庭ごみ組成調査に取り組んできました。その中で、容器包装材の割合が約6割もあることを再三

にわたって指摘してきました。この度、ドイツ、フランス等のヨーロッパの容器包装に対する法律制定の動きやこの調査結果を参考にして、容器包装リサイクル法が法制化されましたが、まだ、欠陥が多いのが現状です。そのため、今後の実践的業務の中で法改正に向けた具体的提案をしていきたいと思っています。

## 福祉の現場実習体験記 ～痴呆高齢者との生活を通じて得たこと

〔大阪事務所／大河内 雅司〕

お年寄りが怖かった自分が変わっていききました

私は、仕事の領域を広げるために大学に通っていて、社会福祉士を目指しています。カリキュラムの中には24日間の現場実習があり、レポートや試験、スクーリング（学内講義）で学んだ福祉理論を、現場で身につけることを目的としています。

私自身は核家族で育ち、現在も70歳間近な両親とは離れて暮らしています。高齢者との生活経験が全くありませんので、実習前は、少しおおげさですが「高齢者が怖かった」というのが正直な気持ちでした。福祉の現場に

ふれることで、高齢者に接したことのない普通のサラリーマンがどのように変わっていったのかレポートします。

### 実習テーマは痴呆高齢者の生活支援

実習に先立って参加した講演会<sup>※</sup>でグループホームに感銘を受けたこと、痴呆高齢者への対応は高齢社会の課題であることから、現場実習のテーマを「痴呆高齢者の生活支援」としました。そのために実習先は、特別養護老人ホームの痴呆棟とグループホームを選びました。

## 痴呆を理解することの難しさ

Sさんが入所されたとき、しばらく二人で話をしたのですが「この人は本当に痴呆だろうか?」と思いました。ガス台の火を消し忘れてボヤをおこしたり、水道を開け忘れて水浸しにするなど、家族の方から話を伺うまで、Sさんが痴呆であるとは思えませんでした。

痴呆の初期段階の方は、一般の高齢者と同じように、ごく普通に世間話をされるように、まだら状の痴呆といわれます。介護保険の要介護認定において、普段は介護が大変なのに、調査員の前では普通の人に戻ってしまい、判定が軽くなるという話を実感しました。

「どーんとぶつかってしもて驚いたで」にこちらが驚く

援助技術の原則一つに「個別化」があります。利用者の一人ひとりに対して、どんな援助が求められているかを考えることから実習が始まります。その人の生活史やケース記録を読み込み、生活上の問題を把握し、それを補う援助によって生活の質向上を図ります。

Yさんは80歳の男性で、かなり痴呆が進んでいます。会話を通じたコミュニケーションが成立しないため、どのように接すればいいかわからず悩みました。かつては漆の職人さんだったことから、昔の仕事の話をすることを試してみました。ふとしたきっかけで、「あのときはどーんとぶつかってしもて驚いたで」と笑いながら身振り手振りで話をされ驚いたことがあります。

援助方法を工夫することで利用者に近づいていく

何がYさんの笑顔を引き出したのだろうか、Yさんとのコミュニケーションの手がかりはどこにあるのだろうか、と考えました。もう

一度、あの笑顔を見たいと、色々試してみるなかで、自分にとってしんどい存在だったYさんが身近な存在になりました。痴呆の方は自分の最も充実していた時期に戻っていることが多いのです。生活史からその人の輝いていた時代を読みとって、こちらからそこへおじゃましていくことを学びました。

心のはりあい（生活リハビリ）が痴呆の進行を抑える

Sさんは、コップを洗ったり食事の配膳などお手伝いをされていると落ち着いておられます。手伝っていただいたお礼を言うと、表情が和らぎ精神的に安定していることが分かります。人の役に立っているという安心感は、心の安定につながります。生活のなかでその人の役割をもってもらい、心のはりあいを保つことが痴呆の進行を抑えます。

逃げ腰だった入浴介助や排泄介助で腰を痛める

子どものおしめぐらいしか換えたことがなかった自分にとって、入浴介助や排泄介助はできたくはないというのが本音でした。入浴介助の際に高齢者の体を見たときにはショックでした。あまりに細く、たよりなく、介護者としての責任を感じました。また、食事介助では障害の状況に応じて工夫しなければ、のどに詰まったり危険を伴います。緊張して肩が凝り、利用者の口元にもっていくと自分も無意識に口を開けているほどでした。排泄介助では、トイレに行きたくないという利用者に対して、声かけによって上手に誘導したり、寝たきりの方のおむつを替えたりもしました。腰が最初に悲鳴をあげてしまい、高齢者の介護は体力的にも大変なことを実感しました。



## 介護を通じてコミュニケーションに慣れる

麻痺の残る状態を気遣ったり、耳元に口を寄せて大きな声で話したり、手を握ってゆっくり話したり、実習を通じて高齢者とのコミュニケーションに慣れ、高齢者に対する自分の気持ちが変わっていくことは新鮮な体験でした。

## 誰もが自分の可能性に向かうことができる援助を

経済優先の競争社会は、競争弱者を生み出す問題を抱えています。個人の努力をもってしても解決できない、生活上の困難は社会が生じさせています。それ故に、社会の責任として最低限の生活を国が保障することが憲法でうたわれています。

援助の原則の一つに「人間が変化(成長)する可能性を信じる」があります。痴呆や寝たきりになっても、利用者の変化を信じてその人らしい生活を支援する努力が現場ではされています。社会福祉の本質は、「全ての人の尊厳を守る」ことであり、障害をもって、人生の終末期にあっても、その人が自分の可能性に向うことを援助することです。

## 現場にふれて自分の価値観が変わる

自分のふだんの生活では、寝たきりや痴呆の高齢者に接する機会はありません。仕事



心の生活は、ともすると経済効率中心の価値観に固まっています。社会福祉を学ぶ以前は、人生の末期に寝たきりや痴呆になることは、それで人生が終わりであると思っていましたが、寝たきりや痴呆の高齢者の生活を支える現場にふれて、自分の狭い価値観が変わっていきました。

## ノーマライゼーションの実現には実践の積み重ねが大切

残念なことです、いまだに福祉施設は迷惑施設であり、痴呆の高齢者や障害者への差別や偏見は根強いものがあります。私が実習でお世話になった特養では市街地に単独型のグループホームを計画していましたが、地域からの反対がおこっていました。公民館や図書館を利用するように、福祉施設が身近なものとなるにはまだまだ時間がかかりそうです。

ノーマライゼーションの実現のためには、一人ひとりが高齢者や障害者と接することによって、意識を変えていくという、地道な取組が必要です。理念だけで人は動きません、実践を通じてしか人の意識を変えていくことは難しいと感じています。微力ですが実践のお手伝いを通じて、学んだことをお返ししたいと思っています。

注)「痴呆性高齢者ケア～グループホームで立ち直る人々～(中公新書)」を書かれた小宮英美さんの講演会でした。ビデオもつくられています。「ほけなんか怖くないーグループホームで立ち直る人々ー」

高齢社会をよくする女性の会・京都

電話 0774 - 45 - 2793

## 環境ビジネスの近未来がすぐそこに・・・

〔大阪事務所／福岡 雅子〕

大阪環境産業振興センター「ATCグリーンエコプラザ」が6月20日、オープンしました。場所は、大阪南港のアジア太平洋トレードセンター11階、福祉をテーマとした「ATCエイジレスセンター」のお隣です。4,500㎡のスペース一杯に、色々なゾーンに分かれて環境ビジネスの「いま」と「これから」について、展示や情報発信を行っています。

クリーンエネルギー自動車を展示し、最新技術を紹介する「CEV（セブ）パークかんさい」ゾーン、400品目ものエコマーク商品を展示する「エコマーク展示」コーナー、ごみ減量のための3R（Reduce＝減量・Reuse＝再利用・Recycle＝再生利用）技術の展示コーナー、大阪近辺にある外国公館の協力を得た「海外紹介コーナー」などがあります。

企業の展示ブースでは、環境問題を解決するために役立つ製品、技術、素材、サービスなどについての紹介が行われています。環境ビジネスへの参入を考える企業や、製品・技術などの利用を考える消費者にとって、今後の取り組みの参考となる情報です。

300人収容の「多目的スペース」では、セミナーや講演会、展示会が行われています。アルバック大阪事務所では、循環社会チームと建築チームが共同で、「自主環境管理支援ゾーン」のプランニング・展示企画のお手伝いをしました。「自主環境管理」というのは、法規制など、他者から強いられて環境を守るのではなく、それぞれの企業が自ら環境に負荷を与える活動を管理し、環境を保全してい



自主環境管理推進支援ゾーン

こうという考え方です。

自主環境管理支援ゾーンの展示の目玉は、「環境報告書」です。「環境報告書」とは、各企業が環境への負荷や環境管理内容について、決算報告書のように、年に1回、公に報告するための冊子です。現在、約130冊を展示し、関西一の展示冊数を誇っています。環境報告書をつくっている企業はまだ少ないですが、報告書づくりのセミナーなどを通じて、作成企業と展示物をどんどん増やす予定です。

ATCグリーンエコプラザにお越しいただき、「環境ビジネスや自主環境管理をやってみよう、環境報告書をつくろう・・・」とっていただけたら何よりです。

なお、ホームページの中でも、ATCグリーンエコプラザの概要や、セミナーの日程の紹介の他、環境ビジネスについての簡単な解説をしています。どうぞ、ご覧ください。

（URL：<http://www.ecoplaza.gr.jp/>）

## 知事もノーネクタイ 関西でエコキャンペーン続く

〔大阪事務所／重本 幸彦〕

### 期待される本格的キャンペーン

7月のはじめ、豊岡市でのコウノトリの野生復帰をテーマにした国際会議に参加したところ、記念講演に立った兵庫県の貝原知事がノーネクタイの開襟シャツ姿だったのに強い印象を受けた。というのは、以前、関西広域連携協議会の発足へ向けての「夏の軽装キャンペーン」検討に少しかかわった経過があったし、私自身も夏はノー上着を通してきたからだ。

### 関西の行政・経済界が音頭

関西の府県・政令市・経済界などで構成する関西広域連携協議会が、音頭をとって、「関西サマーエコスタイル・キャンペーン」を7月3日～9月30日まで実施した。今年で2年目を迎えるキャンペーンのねらいは、軽装勤務によりオフィスの冷房温度を28℃以上にし、省エネと地球温暖化防止を図ることで、冷房病などへの配慮も含まれている。

### デザインの良いエコファッションが鍵

関西は繊維産業が盛んで、単なる軽装キャンペーンでは業界から消費減になるといわれる可能性がある。そこでエコファッションの軽装を開発し、アパレル産業の振興も同時に図るということで、この目的のファッションショー開催も行われた。

成功のポイントは、接客時に「軽装では失礼になる」という意識や習慣の克服とみられる。実は私も半袖シャツ姿だが、今のところ来客時や外出時にはネクタイをしている。やはりノーネクタイでは、襟元が気になる。紐タイや開襟シャツは、なんとなくパリッとしなない。今のところ、スタンディング・カラー（襟のないカラー。中国服に多い）が良さそう

だが、学者やアーティスト風の印象で、ビジネスマンにはどうだろうか？

そもそも上着の下に着る白いシャツは「下着（または中着）」で、下着としてデザインされたものを上着としていることに根本的な問題がありそうだ。ぜひともどなたかオフィシャル感のある涼しいシャツをデザイン開発してもらいたい。

### 日本の風土にあったエコファッション文化の確立を

この夏は暑かったが、その中をドブネズミルックで歩くビジネスマンのご苦労なことで、見ている方も暑苦しい。フィリッピンやインドネシアなどでは、大統領などもノーネクタイの軽装が多い。日本も夏はこれらの国に負けない高温多湿なのだから、涼しいヨーロッパの物まねの背広姿からそろそろ脱却してはどうかと思う。

関西広域連携協議会も「（夏は）軽装でも失礼にあたらない」という環境共生文化を、関西から発信するとの意気込みである。

同協議会の優れたイニシアティブに敬意を表するとともに、地球環境とビジネスマンの快適さのため、今後もエコファッション文化の日本での定着をリードしていただきたい。



エコスタイルキャンペーンポスター

## ふらっとバスにて

〔大阪事務所／澤田 英郎〕

最近、「コミュニティ」という言葉をよく耳にします。それは、辞書によれば共同体や地域社会などと記されていますが、言葉が一人歩きしているようで、現実的なイメージが沸いてこないのが私の正直な気持ちです。コミュニティの実態、そしてあるべき姿とは？

### コミュニティバスの経験

近年、高齢化や環境制約などの時代潮流に後押しされ、様々な地域で交通需要マネジメント(以下、TDMと略記)が実施されています。金沢市でも、TDMに関連する様々な取り組みがなされており、7月7～8日に部のメンバーで見学に行って来ました。数ある施策の中で、私が最も惹かれたのは、コミュニティバスという名目の小型低床バスで、コミュニティバスとは何だろうと思ひながら、金沢駅からバス停まで歩きました。そして、ふらっと(Flat)フロアと気軽にふらっと出かけることを引っかけて命名された「金沢ふらっとバス」の名称に苦笑しながら、そのバスの到着を待ちました。まもなく到着したその姿は、実際に見ると本当に「小型」で、座席に着くとフラットフロアのためバスとは思えない低さを感じました。また、フラットフロアだけではなく、走行時に車椅子を固定しておくフックや天井と床をつなぐ棒状の持ち手など高齢者や障害者へ気配りの効いた設備も印象に残っ



写真出典：パンフレット

ています。そして、私達は、バスに揺られながら狭い路地を通り、歩行者天国の商店街(このバスだけは通行可能です)をゆっくり抜け、目的地に到着したところで100円を払って下車しました。

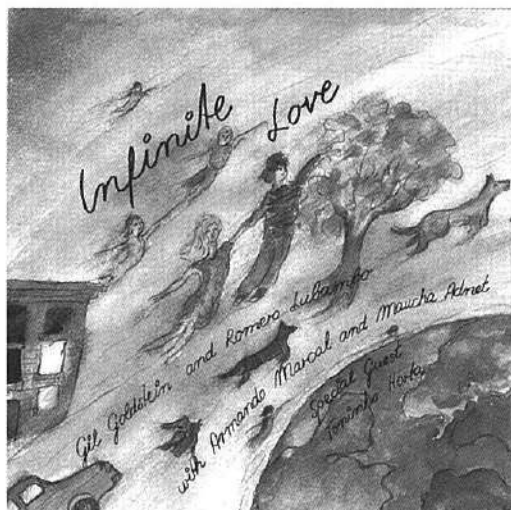
### 最も印象深い会話

この体験の中で、私が最も印象に残ったのは、あるバス停で降りようとしたおばあちゃんと運転手の何気ない会話です。「ここで降りたら〇〇って店に行けるがけ?」「よく分らんけど、この先にもバス停あつからあ、そこまで乗るけ?」「なあん、いいちゃ(いや、いいです)」。地元が富山の私は、その会話に懐かしい方言の匂いを感じると共に、どこか優しい言葉のやりとりで暖かい気持ちになったのを覚えています。その後、地元のコンサルタント(計画情報研究所)の方に話を聞いたところ、そのバスの導入後、商店街の売りげが増し、また地元の高齢者などから好評で、今バスはかなりの人気だということです。

### バス空間が触れ合いの場として

もし、コミュニティが一定規模のエリアを対象とするならば、近所づきあいを基本にしても、気軽に行ける八百屋さんなど、生活をしていく上での「まちとしてのつきあい」が必要でしょう。とすれば、コミュニティとは、人々が触れ合いながら共に生活していただける地域社会、そんなイメージに帰着するのではないのでしょうか。そして、コミュニティバスとは、エリア(人々の触れ合いの場)を空間的に拡大するだけでなく、バスの持つ空間そのものが触れ合いの場になる、そんなバスではないのでしょうか。これは、私見の域を越えず、抽象的なイメージに過ぎませんが、日常の何気ない会話にコミュニティのあるべき姿を垣間見た気がした一夏の体験(?)でした。

紹介者／京都事務所 永濱 幹雄



## INFINITE LOVE

GIL GOLDSTEIN & ROMER LUBAMBO

1993(BW2008)

日差しのある風景を思い起こさせるような心地良いサウンドを紹介します。休みの日に身体を充電したい時や、そこらの音楽に疲れて鼓膜がだるくなった時などに最適です。

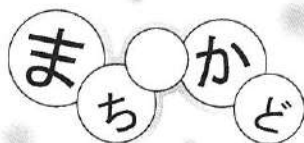
私にとっては6年前に興味本位で入手したもので、最初はもの足りないくらいでしたが、意外と飽きることなく長く聴き続けられています。というのも、耳当りは自然な音色ではあるけれども、それぞれの演奏のディテールがしっかりしているため、聴き込むほど細部の音の発見が楽しめるせいでしょう。特にROMER LUBAMBO(ホメロ)とTONINHO HORTA(トニーニョ)のダブルギターによる安定感と豊饒感、それに絡むようなGIL GOLDSTEINの踊るアコーディオンが聴き応えありです。

参加アーティストは、中南米フュージョン

シーンで活躍するミュージシャンが中心となっています。ホメロは日本ではボサノヴァギターの名手として知られていますが、ニューヨークを拠点にブラジル音楽をベースとしたコンテンポラリーサウンドを作り続けており、Larry Coryellや渡辺貞夫などのセッションにも参加しています。7曲目ではcavaquinho(カバキーニョ：ポルトガルの民族楽器で4弦スチール弦)による軽やかな演奏も聴かせてくれます。トニーニョはミナス派(ブラジルの地方、ミナス・ジェライスの気の合う音楽仲間)の代表的なミュージシャンで、複雑なハーモニー感覚と内陸部ならではの少し陰りを帯びたサウンドが特徴的です。彼のブラジルの音楽要素は、日本でも人気のPat Methenyにも影響を与えているようです。当作品ではリズムギターとして多彩で浮遊感あるハーモニーを奏でていますが、ちなみに自身のリーダー作ではエレキギターで激しく唸る演奏も披露してくれます。

シンプルな楽器構成でありながら、鍛錬された技術と文化をベースにした想像力によって、豊かな音色のバリエーションを聴かせてくれる、こんな作品に創作意欲をかき立てられるのは私くらいでしょうか？





## 南下するか阿倍野の人の流れ

〔大阪事務所／中塚 一〕

定点観測的に天王寺・阿倍野周辺の新しい施設とその人の流れを見ていますが、今回は、9月にオープンしたあべのHOOP(フープ)。

近鉄百貨店及び近鉄あべの橋駅の南側の、平成4年時点では駅裏の寂れた配送センターでしたが、その後、TSUTAYAとコンビニに建て替えられ、そして今回、人気のショップ(ロフト、無印良品、ピームス、サザビー等)が集積したファッションビルに変身しました。写真はオープンから4日目の月曜日ですが、阿倍野周辺のどこに若者達がいたのかという程の賑わいを見せています。

オープン時点での周辺への波及効果としては、近鉄百貨店の裏側であったのが表通りになり、ルイヴィトンの大型店が駅裏通り沿いに入居、近鉄百貨店のテナントの入れ替えが一部あった他は、周辺の飲食店や昔からあった隣りのたこ焼き屋に行列をなしている等です。

建物の1階部分に、南側の近鉄駐車場や大規模な空閑地を睨んだ通路が配置されていますが、今のところ人の流れは殆どありません。今後、さらに南側



賑わいをみせるHOOP

の地区での魅力的なスポットづくりに期待が寄せられるところです。

HOOPで確かに阿倍野のイメージが変わりました。エレベーターの前に乗っていた高校生のカップルが「これで梅田に行かなくてよくなったね。」と言っていたのですが、今後、東京系の人気ショップが集まった段階の次に、阿倍野でなければ出会えないスポットになっていくための周辺地域への波及効果が期待されるということです。



駅裏通り沿いのルイヴィトン店



駅裏だった平成4年時点の地区

## アルバック (株)地域計画建築研究所

・本 社

・京 都 事 務 所 〒600-8007京都市下京区四条通り高倉西入ル立売西町82・大和銀行京都ビル8F/TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764

・大 阪 事 務 所 〒540-0001大阪市中央区城見1-4-70・住友生命OBPプラザビル15F/TEL(06)6942-5732 FAX(06)6941-7478

・名古屋事務所 〒460-0008名古屋市中区栄3-18-1・ナディアパークビジネスセンタービル13F/TEL(052)265-2401 FAX(052)249-3925

・東京事務所 〒160-0011東京都新宿区若葉1-1・YTビル2F/TEL(03)3226-9130 FAX(03)3226-9560

・九州事務所 (株)よかネット 〒810-0001福岡市中央区天神1-15-35・ホンダハビエ 5F/TEL(092)731-7671 FAX(092)731-7673